

# 世界展開力強化事業 ブラジル長期留学 第三回報告書

国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科 3年 川村怜

## 1. はじめに

第二回報告書からこれまでは、私にとって最も辛い期間であった。

この報告書が誰に読まれ、誰に向けて書かれるべきか、誰の為になるのか分からないが、まずは自分の心情を率直に書き綴らせて頂きたい。

この期間は徹底的に自己否定をした。自分がどんな考えを持つのか、何が好きなのか、どんな人間なのか分からなくなり、自分の全てが信じられなくなり、生きている価値がないように思えた。自分を認められないと人を受け入れることも難しくなり、不本意に全てに反発心をもってしまい苦しい時期であった。

自分の詰めの甘さや危機管理能力不足が上辺に出て、大事な物を失い、お金も失い、大切な友人にも迷惑をかけた。他にも書ききれない程の辛いことがあった。

はじめて帰りたいと、全てを投げ出してやめたいと思った。今回の留学は4度目で、今まで一度もホームシックに陥らなかった上、山と言われる3ヶ月目も難無く越えたので、まさか自分がこのようになるなんて思いもしなかった。

また、その分たくさんの人に助けられた。正直それまで私は友人関係が希薄だと思っていたが、彼女らの無償の愛に多く救われ、こんなにも支えてくれる友達がいたこと、そして友情の大切さを身に染みて知った。友こそ宝だと心から思った。なるべく自分の力で生きたかったが、ときに人を頼る大切さも学んだ。自分が無力なのではなく、出来る人が出来ることをして支え合えれば良い。

さて、例によって活動報告を始めたい。夏休みによりほとんどを外で過ごし、そこで学んだ膨大な事柄をこの報告書ひとつに述べるは難しいため詳細は割愛させて頂く。

## 2. 活動報告

まずは、ミナスジェライス州での農家だ。ここには一昨年学科の実習で1ヶ月間お世話になり二度目の訪問となった。前回の報告書に述べたように1,300haの土地に穀物や大豆、野菜を植え、地元のスーパーや市場に品物をおろしている。一年半振りに市場へ行ったが、私を覚えていた方がおりとても嬉しかった。市場での新しい発見として、同じ野菜を比べたときほとんどの場合日系の農家さんの方が美しいということがみれた。日本人の手先の器用さや仕事に対する精神からだろうか。また、デコポンとドラゴンフルーツをブラジルに持ち込んだ方ともお会いした。「百姓はいつも一年目」と勉強や研究をし続ける姿がとても印象的であった。

次にパラ州をベレンでの実習だ。ここでは農大OBの方による森林再生プロジェクトの見学、アバエテトゥバでの河辺の実習、サンタ・バーバラにある部落での実習をした。

アマゾンと同じブラジルでも普段いるサンパウロとはまるで異国で、時の流れがゆったりしていた。現地の方と交流する中で幸せとは何か改めて考えさせられた。

次はパラ州トメアスだ。ここには約三週間お世話になった。トメアスは日本人が開拓した町であり今でもたくさんの日系の方がいる。日系人が作る唯一のカカオ産地であり日本のチョコレート会社も契約を結んでいる。日本ではあまり知られていないが日本ととても縁の深い場所だ。トメアスで僧侶を始めた方が「アマゾンという自然が私を感化した」と言ったのを忘れられない。サンパウロとの違いを肌身で感じ、環境が人に与える影響の強さを実感した。

そして、JICAの方の案内でブラジルのほぼ中央に位置する首都ブラジリアにも伺った。ここでは大豆農家、セラード研究所、野菜研究所を訪問した。アマゾンの木が生い茂るのは打って変わり、目前にあるのは果ての見えない大豆畑。ブラジルを知れば知るほどまた新たな一面を見せられ、その雄大さを体感するのであった。JICAがここブラジリアにもたらした利益は大きく、それは待遇の厚さからも窺えた。遠く離れたこの地で日本が活躍していることを嬉しく思った。国際協力の素晴らしさに触れた。

### 3. 終わりに

この期間私は大きく環境を変えた。長期休暇が終わり、新学期が始まると共に大学のキャンパス及び住居を変更した。今は前居からはバスと電車で三時間程の都市にいる。キャンパスの変更とはいえ日本のそれとは性格が異なり、ほとんどの生徒は自分が前にいたキャンパスを知らず、キャンパス間の関係は薄いと言える。構内は広大でバス移動が主要だが、私はなぜか学籍の移動が完了してないらしく使えない。しかし、徒歩は運動不足の体には丁度良く、緑も多いので良いリフレッシュになっている。

余談だが、ここで今シェアルームをしているペルー人について書く。私は彼女から多くのことを学んだ。旅好きで今まで何ヶ国も一人旅をし、ブラジルも着いて間もないが既に各地を赴いていた。現地の出会いを大切にしたい等の理由からヒッチハイクをするのが彼女のやり方だ。とは言え危険なブラジル、女の子がましてや外国人が一人で恐れは無いのか尋ねた。もちろん不安はあるが一番大事なことは相手に心を開くこと。自分が相手を恐れていたなら相手も恐れるとのことだった。それは初対面の態度から明らかだった。まずは疑ってかかる私と対極にあると思った。彼女の考え方を持ったなら世界は味方で溢れていて、さほど怖くないのだと感じた。馬が合い、出会ったその日に一緒に旅行することにした。彼女の旅に日程はない。海が見たいから海に行き、そこで友達を作り彼らと共にする。本物の旅を見た気がした。彼女とルームメイトとして出会えたことは私の人生の財産だ。

留学7ヶ月目にして新たな環境、大学、友人の中また一から始めるのは正直とても大変だ。何より心の支えであった農大の友人が側にいないことは心細く、言葉には表せれない孤独を感じる。しかし、ここに来た意味を忘れず、新たな出会いを喜びにして再び頑張っ

ていきたい。



トメアスの胡椒畑



ブラジリアの大豆畑